

12月4日（水）

上海リニアモーターカー視察

上海浦東国際空港到着後、リニアモーターカーを利用して、浦東国際空港駅から龍陽路駅まで移動した。上海リニアモーターカーは、2002年12月に開業し、世界で唯一の「高速リニアモーターカー」として営業運転をしている。最高速度は時速431kmに達し、約30キロメートルの距離をわずか約7分30秒で結ぶが、2020年から全列車の最高速度を時速300kmに引き下げて運行している。この高速移動は、上海市の先進的な交通インフラを体感する貴重な機会となった。



上海リニアモーターカー龍陽路駅にて

在上海日本国総領事・大使との意見交換

オークラガーデンホテル上海にて、岡田勝在上海日本国総領事・大使から上海市の状況について説明を受け、意見交換を行った。

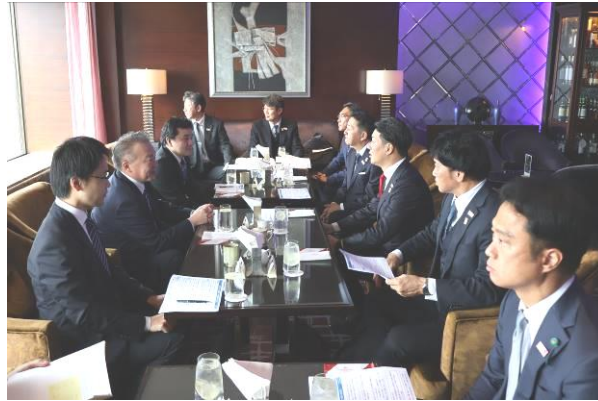
上海市は非常に親日的であり、日本人コミュニティが活発に活動している。市内には約3万7,000人の日本人が住んでおり、上海日本商工クラブは、法人会員数が2,300社に及ぶ世界最大の日本人組織である。また、2校の日本人学校には小・中・高合わせて2,000人の在校生がいる。

経済面では、中国全体の経済成長率が鈍化している中でも、上海市は依然として商業と経済の中心地としての地位を保っている。不動産市場の低迷や消費者のマインドの変化が見られる一方で、輸出や製造業が経済を支えている。また、富裕層の消費は依然として活発であり、GDPの成長率は驚異的な5%を維持している。

上海市政府は、日系企業がビジネス環境の改善を求めて提出した要望に対して丁寧に対応してくれており、各企業は感謝している。また、4月には横浜市長、9月には長崎県知事が上海市を訪問しており、日本の各都市との交流に積極的である。

上海市では、デジタル化が進んでおり、現金を使わない取引が一般的となっている。物流や食品の安全性も高く、バーコードによる詳細な追跡が可能となっている。治安面でも、監視カメラの増設により非常に改善されている。

これらの説明を受けた後、上海市民の住宅・交通事情、電気自動車の普及・充電設備の設置状況、電力供給状況などについて意見交換を行った。



意見交換の様子

両市の河川をテーマとした写真展（上海市・大阪市共催）視察

上海地下鉄「人民広場」駅の文化場長廊で開催されている大阪市と上海市の友好都市提携50周年を記念した写真展「河流的故事」を視察した。この写真展は、本市においては、令和6年10月1日から16日まで市役所1階市民ロビーで開催されていたものであるが、上海市では、11月21日から12月11日まで開催されている。大阪も上海もともに川と産業・人・暮らしが結びついて発展してきた都市であり、「水都」とも呼ばれている。展示されている写真は、「河川」をテーマとした、両市の賑わいやシンボリックな風景を切り取ったものであり、縦2.7メートル×横1.4メートルの大きなモニターで写真が展示されていた。これにより、3つの地下鉄路線が乗り入れる「人民広場」駅を行き交う多くの人々に両市の魅力が伝えられていた。

最後に、横山市長とともに大阪市会代表団もステージに登壇し、写真展を訪れた上海市民に両市の友好関係をアピールした。



視察の様子



写真展でのステージ登壇

臨港地区ショールーム（臨港外灘中心）視察

今回は残念ながら臨港地区を直接訪問して視察することはできなかったが、臨港地区ショールームで上海港の事業についてのプロモーション動画の視聴及び臨港グループ担当者からの説明の後、意見交換を行った。

【臨港グループ説明要旨】

現在の臨港地区は過去の景観から大きく変化している。上海港は、小型 HV トラックや大型リフトがすべて自動化されており、1 人の作業員が複数の荷役機械を操作するシステムが導入されている。将来的にはすべての荷役機械の遠隔操作が可能になると考えている。

【横山市長挨拶要旨】

上海市に歓迎していただき感謝する。いたるところで経済の成長とチャレンジする気持ちを感じる。とにかく早い決断とチャレンジが上海市のエネルギーを生み出していると感じる。大阪市にも港湾機能があるが、デジタル化が遅れており、古い労働環境が変えられない。新たな技術も取り入れてはいるが、スピード感が全然違う。上海市のような高度なシステムを取り入れていかなければならないと考える。

【意見交換要旨】

〔大阪市〕

苦労した点や課題となった点があれば教えてほしい。

〔臨港グループ〕

一番大きなチャレンジは 2016 年にターミナル全体で自動化にシフトしたときで、約 2.3 万平方メートルの広大な土地に一気に着手したのは危険性が大きく非常に大きなチャレンジだった。テストしながら建設を進めていった。

課題は時代の変化が激しいことである。設計では、2016 年から運用を開始し、コンテナ取扱量を年間 630 万 TEU と想定していたが、実際には 2016 年から 3 年の実績は 680 万 TEU だった。今後も需要が増えていくと見込まれている。インフラ施設はこれ以上増設できないため、これからは既存の施設を活用し、効率化して受け入れを増やしていかなければならない。我々臨港グループは上海市の公営企業だが、中国（上海）自由貿易試験区管理委員会とともに臨港資源の開発に努めている。



意見交換の様子



臨港グループショールームのテラスにて

上海市長親善訪問

外灘地区にある上海市を代表する歴史的なホテル、和平飯店（フェアモント・ピース・ホテル）にて、上海市長への親善訪問を行った。

【龔正市長挨拶要旨】

習近平主席は、上海市を経済、貿易、金融、海運、科学技術という5つのイノベーションセンターにすることを目指している。

まず、経済政策として、昨年の上海市のGDPはおよそ4兆7,200億人民元で前年比5%増加した。

金融政策では、上海市の金融市場の出来高は3,373.6兆人民元で、金融機関は1,771社あり、そのうち外資系が550社である。上海市の産業構造は、第一次産業は0.2%、第二次産業は約25%、残りの第三次産業は75%で、そのうち金融が18.3%を占めている。

国際的な貿易センターとして、昨年の上海の輸出総額は1.7兆人民元で、これは世界の貿易額の3.7%を占め、都市別では世界一と考えられる。

海運センターとしては、上海港のコンテナ取り扱い量が昨年4,915.8万TEUで14年連続世界一であり、今年は5,000万TEUを突破する見込みである。

科学技術のイノベーションセンターとして、ここでは3つのデータを挙げる。

まず1番目は、昨年の上海市のR&D（研究開発費）のGDPに占める割合はおよそ4.4%であった。また、昨年1万人あたりの高価値発明特許保有数は50件程度だが、今月の新しいデータでは57～58件となっている。さらに、世界知的所有権機関（WIPO）のグローバル・イノベーション・インデックス2023では、上海・蘇州クラスターは世界の「ベストテクノロジークラスター」の中で5位にランクインしている。

今日の午前中、上海市で世界の知的財産権国際フォーラムが開催され、日本の特許庁長官も出席した。今年に入ってから、世界的な状況が激変する中で、我々の経済も影響を受け

ている。我々の GDP の 4.72 兆人民元のうち、輸出入が 4.2 兆人民元を占めている。今年に入ってから国際情勢の変化により様々な問題が発生しているが、我々は困難を克服しながら経済の安定を保っている。経済の成長率は、今年の 1 月から 9 月までの成長率が 4.7% だった。年間目標は 5% であり、この目標達成には自信を持っている。

2 番目として、産業のグレードアップも実現されつつある。先導産業、つまり集積回路、バイオ医薬品、人工知能の分野の、昨年の産業規模の総額は 1.6 兆人民元である。この先導産業の GDP への貢献率は 44% であり、半分近くが先導産業の貢献によるものである。

3 番目に、我々はビジネス環境を整えるために一生懸命に取り組んでいる。昨年の海外からの直接投資の総額は 240.9 億ドルで、4 年連続で 200 億ドルを超えている。今年は総額としては少し減るかもしれないが、新設の企業数は増加している。また、多国籍企業の地域本社数は今年 47 社増え、合計で 1,003 社の地域本社がある。外資系の研究開発センターも今年 24 社増え、現在は 585 社である。

上海市と大阪市は非常に緊密な関係にあり、半世紀にわたって深い友情を築いてきた。1974 年に友好都市となり、この 50 年間で非常に大きな成果を上げた。1995 年にはビジネスパートナーシップを結び、1981 年には上海港と大阪港が友好港となった。長年にわたり、両市は経済、貿易、金融、港湾、都市建設、人的往来の分野で数多くの成果を上げている。今年は友好都市提携 50 周年を迎え、これを機に両市の友好関係をさらに深めていきたいと考える。

これにあたって 4 つの提案をしたい。

まず、経済の協力を強化することである。大阪市は日本の 2 番目の大都市で、関西圏では経済、商業、ビジネスの中心地である。上海市も中国で経済都市として 5 つのセンターを構築している。特に、上海市では毎年、中国国際輸入博覧会を開催し、貿易、投資、人的往来を促進している。この博覧会は 2018 年から始まり、毎年 11 月 5 日から 10 日までの 6 日間が会期である。この期間にとどまらず、年間を通じて展示や支援を提供し、多くの企業の上海市への投資を促進している。

次に、産業の投資協力を強化することである。大阪市は金融が発達し、ビジネスが栄えている都市である。多くの大阪発の企業が上海市に投資している。上海市には約 6,500 社の日系企業があり、そのうち 650 社は大阪発である。今後も市場、国際的なビジネス環境を整え、大阪市の企業に上海市への投資を促したい。また、上海企業も大阪市へ進出し、フィンテックや先進的製造分野、グリーン・低炭素分野で協力を深めたいと考えている。

3 つ目は、都市ガバナンスにおける協力を強化することである。大阪市は都市の構成や港町の発展、まちづくりについて豊富な経験を持ち、国際的な大都市への変貌に成功している。来年の大阪・関西万博は大阪市の未来への発展につながると信じている。上海市も 2,500 万人の人口を抱える大都市として、ガバナンスの向上に努めている。両市は都市計画や管理、港の運営について交流を深め、共に学び合いたいと考えている。

最後に、人的往来と観光の協力である。大阪は都市景観が美しく歴史のある水の都であり、食べ物も有名である。例えば、USJ は上海市民に人気がある。上海市も中国文化と西洋文化

が融合した地であり、国際的な観光都市を目指している。11月30日から中国は日本に対してビザの免除を行っており、これをきっかけに文化的、人的交流を深めたいと考えている。これにより、両市の友好関係がさらに強まることを期待している。

【横山市長挨拶要旨】

上海市の皆さんの歓迎に心から感謝申し上げる。上海のまちに着いてから、いたるところで皆さんの街のエネルギーや情熱、親しみやすさ、人々の熱さを強く感じる。今日は港湾の取り組みや写真展を見学し、明日はビジネスパートナー都市ラウンドテーブル会議でプレゼンテーションを行う予定である。また、国際金融都市の実現に向けた取り組みについても紹介する予定である。

今回の訪問では、自動運転の車両に乗る機会があり、これを大阪市でも取り入れたいと思う。先ほどお話しいただいたとおり、上海市と大阪市は50年にわたり非常に長い、素晴らしい関係を築いてきた。そして、大阪市は歴史的に経済を担ってきた「あきんどのまち」であり、政治の中心は東京にあるが、大阪市は独自の役割を果たしている。まちの構造としてベイエリアや港湾部が賑わい、複数の川が流れており、水の都と呼ばれている。

これから大阪市は様々な経済政策を進め、特に国際金融都市を目指していきたい。大阪市には証券取引市場があるが、株式市場を拡張することは難しいと思う。だからこそ、フィンテックなどの金融テクノロジーに力を入れていきたいと考えている。

先ほど4点の協力について話があったが、私もその通りだと思う。龔市長の見解、特に金融テクノロジー分野での協力強化については同感である。大阪市に来ていただいた金融関係の企業には、10年間の税制優遇措置を考えている。

来年の万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」である。少子高齢化は大阪市だけでなく、日本全体が直面している課題である。平均寿命は伸びているが、健康寿命は伸びておらず、個人により格差がある。私たちは健康寿命の延伸を非常に重視しており、今回の万博でも生命・健康に関わる技術を披露したいと考えている。大阪市は、IPS細胞を中心に医療産業に長く深く関わっており、再生医療の分野で先進的な技術を持っている。特に今回の博覧会では、大阪ヘルスケアパビリオンで「生きる心臓モデル」を展示する予定である。

来年の万博の際は、ぜひ大阪市にお越しください。これまで50年にわたり、経済、文化をはじめ様々な面で強いつなかりを築いてきたことを上海市の皆さんに感謝申し上げます。また、両市間の協力と交流がより具体化し、発展し続け、次の素晴らしい50年を迎えることを期待している。



龔正上海市長親善訪問の様子

【龔市長】

情熱あふれるご挨拶をありがとう。また、私の4つの提案に賛同してくれて感謝する。そして、大阪市へのお招きをありがたく思う。

来年の大阪・関西万博の大成功を祈る。2010年に上海万博を開催した。その時のテーマは「Better City, Better Life」だったが、大阪市のテーマにも共通する部分が多いと感じている。

少子高齢化は上海市と大阪市の共通の課題であり、上海市でも同様の問題について考えている。いわゆる長寿社会である。現在、上海市の平均寿命は84歳だが、健康寿命も課題となっている。そして、終末期のターミナルケアについても課題がある。

また、先ほど話してもらった金融の件についても協力できると思う。次の50年が楽しみである。



龔正上海市長と

上海市主催歓迎夕食会

親善訪問のあと引き続き和平飯店にて、上海市主催の歓迎夕食会に参加し、龔正市長をはじめ、上海市の方々と率直な意見交換を行い、友好関係の強化に向けて交流を行った。

【横山市長挨拶要旨】

大阪市と上海市が友好都市提携50周年を迎え、みなさまと一緒にお祝いできることをとてもうれしく思う。大阪市と上海市は、1974年に友好都市提携を結んでから、密接な交流を続けており、記念すべき50周年を迎えることができた。11月には、華源副市長をはじめとする上海市代表団の方々に大阪市に来ていただいたことに、改めて感謝する。今後もこのような交流を通じて、大阪市と上海市の友好の絆がさらに強まり、交流が進むことを期待している。

来年には、大阪・関西万博が開催される。先ほど表敬訪問の際にも話したが、ぜひ龔正市長をはじめ、多くの方々に大阪市に来てほしい。本年の友好都市提携50周年、そして来年の万博をきっかけに、上海市との交流をさらに進めていきたいと思っているので、引き続き協力をお願いしたい。



和平飯店のテラスにて